

生涯学習だより

◎ 教育課 生涯学習係
☎(83)7021

5月21日(土)に第1回歴史講座を開催しました。松田町教育委員会が発行した「松田の矢倉沢往還」の記念講演として、文化財保護委員の草門隆さんからお話を伺いました。



初めに、町内の3

コースの道筋を紹介し、この往還をベースとしながら全史的に松田の歴史についての話がありました。『古代の道』では、神山神社や百万遍念仏、町屋の「庚申講」の遺物、「近世の道」では、

谷津・薬師堂付近の道のことやJR矢倉沢踏切跡、「幕末・近代の道」では、沢尻の道標と渡し場のことや新松田駅前ローマンヌ通りについてなど、『道』を中心に広い視野か



「町内の矢倉沢往還3ルート(当日の映像資料より)」

ら松田の歴史について語っていただきました。「道とは、先人の汗と涙の賜物で、町発展の歴史」であると話されていました。

『本日のおまけ』として「私の考える松田の歴史ベスト10」も紹介され、講師の思い入れもつかがい知ることができました。

また、講演の中には、伊能忠敬や源頼朝が神山を通過していったこと、明治には、文部大臣・井上毅が寄地区を訪れ、歌を詠まれたことなどの話

も織り交ぜられていました。講師の「郷土松田」へ熱意を感じました。松田の歴史的魅力を多くの方々に知っていただけたと思います。

松田文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その29

延命寺(三) 延命寺文書

小田原合戦の戦禍を免れた延命寺文書は六通あります。その六通全てが松田惣領の領主である遠山氏が延命寺に宛てたもので、内容的には寄進状や法度(寺に命じた禁制)といったものです。遠山氏は松田・大道寺両氏と共に三家老

衆として北条氏家臣団の頂点に立った家柄で、代々江戸城代を務めました。北条氏家臣としての遠山氏の初代は直景です。彼は奉公衆として室町幕府に仕え、堀越公方足利政知の伊豆下向の際に家臣として下ってきたと考えられています。そして伊勢宗瑞(北条早雲)が公方家を滅亡させた時に宗瑞に従ったと見られています。

直景の文書は三通ありますが、その中でも永正3年(1506)1月14日付の寄進状は特に有名なものです。16世紀初頭、神奈川県西部を支配下に置いた伊勢宗瑞はその地域一帯に検地(土地調査)を行いました。その証拠となる史料が二つあるのですが、その一つが永正3年の寄進状なのです。そしてこの文書は、松田を含む県西部で日本最初の戦国大名の検地が行われたことを示す史料でもあるのです。その意味でも、学術的にも大変貴重な文化財なのです。

今回、御任職の御厚意で永正3年の寄進状を拝見させていただきました。「遠山隼人佐直景」と署名があり、その下に花押(サイン)が書かれています。本文は右筆(秘書官)が書いた可能性があるかもしれませんが、署名・花押は本人の直筆です。今から516年前に遠山直景が書いた手紙が筆者の目の前にあるのです。「今、時間を越えて直景と対面しているんだ」と思うと、年甲斐もなく興奮している自分に気がきました。



遠山直景の署名と花押